有田川町議会広報

かわら版

平成 30 年 8 月発行

第50号

発行　有田川町議会
発行責任者　議長　殿井　堯
住所　〒 643-0021
和歌山県有田郡有田川町
大字下津野2018番地4
TEL　0737-52-2111
FAX　0737-52-2198
http://www.town.aridagawa.lg.jp/profile/gikaikoho.html

地域で見守る通学路の安全対策を！
非常勤保育士の処遇改善を！

一般質問
10議員が質問

平成30年第2回定例会を、6月5日から19日までの日程で開催し、本定例会に提案された議案は、原案のとおり可決しました。

有田川町議会 平成30年第3回定例会は9月4日開会の予定で、一般質問は9月12日・13日に予定しています。

1．佐々木　裕　哲……3ページ
2．椿　原　竜　二……4ページ
3．増　谷　　憲……5ページ
4．殿　井　　堯……6ページ
5．星　田　仁　志……7ページ
6．岡　　省　吾……8ページ
7．片　畑　進　之……9ページ
8．小　林　英　世……10ページ
9．湊　　正　剛……11ページ
10．堀　江　眞智子……12ページ

観光事業にどのように取り組んできたか

佐々木　裕哲

観光事業の取り組みは

産業振興部長　多岐にわたって取り組んできた

質問　職員5人体制で観光振興に取り組んでいるが、成果が見えてこない。今日まで観光客を増やすための取り組みとその成果、また今後の計画はどうか。

産業振興部長　安定した運営を図るため、町内にある観光施設の誘客活動に取り組んできた。

また、大都市圏でのイベントで、本町のPRを行った。

観光基盤の整備としては、観光施設のトイレ洋式化にも取り組んできた。

質問　昨年観光客は何人か。

産業振興部長　宿泊で2万476人（前年比93．3％）日帰りで70万8480人（前年比91．8％）。

質問　観光客がどこから来てくれたのかが大事なことである。それを把握しないと今後の対策はできないのではないか。

産業振興部長　今後、把握するようにする。

質問　鉄道公園の走れるSL（D51）を返す時期がきたのか。

産業振興部長　所有者が関東へ持っていくという話を聞いている。

乗車体験で人気のあるD51

質問　人口減少が予想される中、自治体が観光事業を運営するのは難しい。しかし、地元雇用のこともありマイナス面が大きくならないよう強く望む。そのためには、観光に関するプロのアドバイスが必要ではないか。

産業振興部長　アウトドア系の会社と包括協定を結び、今年度から事業を進めていく。

町長　自然を生かした観光交流を図ることを第2次長期総合計画の重要項目に入れている。

通学路の安全対策は

教育長　対策を考えたい

質問　今まで危険場所へ対策を行ってきたが、まだ未改良のところがある。特に、藤並小学校東側町道の側溝が広くて深い。また、ガードレールもなく大変危険だ。早急に対策できないか。

町長　指摘されている場所は、できるだけいろいろな方法で対処する。

教育長　現場を確認したが、この状況を建設課と話し合い対策を考えたい。

高野街道を示す道標の設置は

教育長　予算の許す限り設置する

質問　今後の設置計画を聞きたい。

新たに設置された道標

教育長　先人が建立された石道標は風化していたので高瀬区、西丹生図区へ新たに2基設置した。

今後、文化財保護審議委員会の意見を聞き、予算の許す限り設置していきたい。

町長　高野街道流域は、日本農業遺産の認定に向け、話を進めている。そうなれば今後、この街道は観光面で期待できる。

有田川町公共施設のWi-Fi設置状況は 子どもの「遊び場」「学び場」の拡大に向けて 正規保育士と非常勤保育士の待遇格差を問う

椿　原　竜　二

公衆無線LANの設置状況と今後の方針は

質問　災害が発生したとき「電話がつながらない」という事態が発生する。

ワイファイは、災害時でも機能を発揮できる通信インフラであり、総務省も「公衆無線LAN環境整備支援事業」を公募している。

現在の避難所への設置率と、今後の方針は。

町長　可能な限り設置していく

町長　現在避難所への設置はどこもされていない。公共施設で設置されているのは、アレックのみである。

維持費の予算措置が必要なので、設置施設を慎重に検討し、平成31年度より設置していきたい。

質問　平常時には観光客や住民が使用できるメリットもある。災害時と平常時のニーズを考慮して、設置する優先順を決めるべきだと考えるが見解は。

総務政策部長　観光施設や他の施設にも、支援事業を適用できると思うので検討していく。

のびのびパスポートを導入しては

質問　子どもの「遊び場」「学び場」を拡大するために、神戸市と連携を図り、広域的に施設を

町長　現状では導入できないが検討していく

無料使用できる「のびのびパスポート」を導入してはどうか。

町長　神戸市に問い合わせたところ、この制度を利用しているのは、関西国際空港全体構想促進協議会加入団体のみという回答であった。

関空の全体構想には大賛成なので、今後、加入できないか要望していく。

また、有田1市3町でも、このような事業を考えたい。

非常勤保育士へのボーナスの支給は

町長　2020年より支給できるように努力する

質問　正規保育士と非常勤保育士の待遇格差があまりにも大きい。

年収の差はボーナス支給の有無が大きい要因だと思うが、今後の方針は。

総務政策部長　今後考えていく課題であるが、かなりの財政負担となる。それも踏まえた上で検討していく。

町長　全員を正規職員としたいが、予算的な都合で実現していない。

2020年4月から改正地方自治法が施行されるので、非常勤職員にもボーナスが支給できるように努力したい。

質問　大きい給与格差がある中で、非常勤保育士は、しっかりと責任感を持って、がんばって働いてくれている。

非常勤保育士がいなければ、今の充実した保育が成り立たないのも事実である。

改正地方自治法が施行されてから支給するのではなく、施行されるまでに支給するべきだと考えるが、町長の見解は。

町長　改正地方自治法の施行時に、支給できるよう努力していく。

大規模風力発電は中止を

増　谷　　憲

乗り合いタクシー制度の内容はどうか

町長　3日前まで予約を

質問　**7月実施に向けて制度の内容はどうか。**

町長　町民や観光客が利用できる。3日前までにタクシー会社に予約。自宅から目的地まで2時間から6時間の間で利用できる。基本は町内だが、済生会有田病院と有田市立病院への利用は可能（詳細は17ページを参考に）。

防災対策の充実を

町長　導入に向けて検討したい

質問　**木造住宅耐震化工事の補助金代理受領制度化を求める。**

町長　県や他市町村の動向も見ながら、導入に向けて検討したい。

質問　**山の林地放置材の撤去と活用を。**

町長　今後、森林整備やさまざまな方法で解決していく必要がある。

質問　**河川堤防の強化や立木・土砂の撤去を。**

町長　河川整備計画にそって進めている。吉原地内は県へ要望していく。

改修が急がれる河川堤防（吉原地内）

子育て支援の充実を

町長　育児用品の助成を検討する

質問　**赤ちゃん育児用品（おむつやミルクなど）助成制度を求める。**

町長　今後、育児用品購入助成事業の品目を検討したい。

質問　**旧町別の出生数の状況はどうか。**

福祉保健部長　平成29年度は全体で160人、吉備140人、金屋13人、清水7人。

質問　**子育て支援センターは現施設（旧きび中央保育所）で存続できるか。**

町長　今後、保育所への入所希望が多くなれば旧きび中央保育所を保育所として復活することもあるかもしれないが、その時は子育て支援センターはどこかにつくる。

質問　**保育士や駐車場不足の改善。また多目的トイレの改修を。**

教育部長　実情を把握しながら改善していきたい。

風力発電施設建設への姿勢は

町長　反対の地域が多くなれば難しいのでは

質問　**県作成の環境影響評価方法書に、町としてどのような意見を出されるのか。議会へ提出を求める。**

町長　各担当課で調整中。7月2日までに回答する。議会へ出せるかどうか県へ問い合わせる。

質問　**県へ建設中止の声をあげるよう求める。**

町長　反対の地域が多くなれば、建設はなかなか難しいのではないか。

質問　**紀美野町と連携をとって取り組まれたい。**

町長　連携をとっている。紀美野町の風力に対する区民や区長会の意見も聞いている。

町民が願う「安心・安全のまちづくり」を

殿井　堯

登下校時の安全対策は

教育長　保護者に終業時間の周知で対応

質問　小学生の下校中に大変痛ましい事件が起こっている。町内での登下校時の防犯対策はどうか。特に保護者が下校時間を把握できないか。

町長　痛ましい事件が頻発し、本町にとっても人ごとではない。子どもサポーターをはじめ少年センター、PTA、教職員などで見守っていただいている。

再犯率の高い犯罪は、警察と連携を密にし、情報を得て未然防止に努めている。

教育長　できる限り正確に終業時間を知らせるよう各学校に指導する。

また、学校や保育所でも、不審者と接触していないかどうかの情報をつかんで見守りたい。

移動投票所の検討を

町　長　浜田市の事例を検討中

質問　有田川町の投票所は、54カ所から30カ所に減らされている。これが投票率の低下につながっている。

以前、遠隔地の人や歩くのが困難な人のために、移動投票所の検討を求めたが、その後どうなっているのか。

町長　移動投票所の導入は、担当職員に先進地の島根県浜田市の事例を視察させている。現在、浜田市の手法を参考に検討している。

総務政策部長　浜田市では平成28年7月の参議院選挙から移動期日前投票所での投票を実施している。

内容は

- **実施地域は11カ所**
- **10人乗りワゴン車を使用**
- **利用者は、1台あたり5，6人**
- **実施地域の有権者数は8人から約30人**

平成29年10月の衆議院選挙では2日間で11カ所の移動期日前投票を行い、有権者数1441人に対して55人が利用した。

移動投票車（島根県浜田市で運用）

新部課長の取り組む姿勢は

各部課長　重要課題に取り組む

質問　今後の厳しい財政状況を見据え、議会に初めて出席する部課長の取り組む姿勢を問う。

福祉保健部長　有田圏域地域活動センター事業を進めること。また介護予防、子育て支援、健康増進などの事業に積極的に取り組みたい。

教育部長　教育の充実、社会教育の推進、文化振興とスポーツ活動の充実、地域子育て支援サービスの充実に取り組みたい。

企画調整課長　長期総合計画に基づき取り組む。

また、交通不便地域の方の利便性向上、ホームページの刷新で町の魅力を発信し、移住者を増やしていきたい。

非常勤保育士の待遇は 高齢者に生きがい対策を

星　田　仁　志

非常勤保育士の待遇改善を

町長　条例改正で改善を図りたい

質問　現在、全体の保育士数の6割以上が非常勤保育士と臨時保育士である。

非常勤保育士や臨時保育士の勤務内容は、正規保育士と同じで、常に責任感を持って仕事をしている。

せめて、給与面を増額することは考えられないか。

町長　平成26年度に非常勤保育士の昇給を条例化し、改善を図っている。

現在、正規保育士との違いはボーナス支給の有無である。

２０２０年４月からボーナスを支給できるよう努力する。

危険な通学路の安全対策は

教育長　安全安心に全力で取り組む

質問　小学生の登下校中の交通事故は後を絶たない。

町内に危険だと思われる通学路はかなりあるが、今までどのような安全対策を講じてきたのか。

町長　子どもの安全対策は常に注意をしている。

子どもサポーター、少年センター、消防団などが毎日巡回パトロールをしている。

町内を巡回する防犯パトロール車

こどもサポーター

る。今後も安全対策に取り組んでいく。

教育長　危険箇所は、学校、教育委員会、道路管理者、警察などの関係者で合同点検を実施し、子どもの安全安心に向け、全力で取り組んでいく。

質問　家が学校に近くても危険な通学路を通らなければならない生徒が、スクールバスを利用できるような対策はできないのか。

教育部長　スクールバスは、休校や廃校によって遠い地区から通学する生徒のためなので難しい。

高齢者の生きがい施策は

町長　社会福祉協議会と共同で支援する

質問　高齢者の生きがい施策であったプレケアすみれ事業（１人暮し高齢者の閉じこもり予防）を一方的に廃止してよいのか。

この事業は高齢者が生きがいとして楽しみにしている。

国の方針通りではなく、町単独事業として残すべきではないのか。

町長　地域に自主的なサロンができたので、移行してもらった。

今後は、この事業に参加できなかった高齢者の生きがいを手助けするのが大きな課題であり、社会福祉協議会と共同でこの問題を考えながら支援していく。

利用者のニーズにあわせたコミュニティバスの運行に

岡　省吾

コミュニティバスの今後は

町長　地域の要望に応え継続する

質問　平成19年度から運行されているコミュニティバス。住民に広く認知され、公共交通機関に恵まれていない山間地域では、欠かすことのできない重要なものである。

過疎化により乗降者は年々減少しているが、今後も継続されるよう町の方針を問う。

町長　乗降者は、年々減少傾向にある。運行開始から今まで、まったく乗車実績がなく廃止した路線もある。

現在、乗降者が少ない路線があることは事実だが、へき地唯一の交通手段であることを念頭に、今後も地域の要望に応え継続していきたい。

質問　利用者の皆さんがコミュニティバスを利用しやすい環境であるかを精査する必要があると考える。

住民へのニーズ調査や意識調査など、声をくみ上げられる体制をとっているか。

総務政策部長　特に調査はしていないが、住民の方からのニーズや要望は、機会あるごとに区長さんから話を聞いている。

コースの見直しを検討できないか

町長　よりよい運行のため地域の声を聞きながら検討したい

質問　清水地区の路線は、コースや時刻表を確認すると非常に厳しい行程が組まれているように感じる。

中でも、遠井～沼～楠本を巡回するコースでは起点から終点まで約1時間の所要時間がかかる。

この要因は、かつて沼診療所（現在は閉院）が開院していたころのコースをそのまま移行しているために生じたものだ。

このような広大な面積の地域は、コースを細分化して運行されることが望まれる。コースの見直しを検討してはどうか。

町長　コースの変更も十分可能であると考える。

どのようにしたら利用しやすいかを区長さんのご意見も伺いながら、見直しを検討したい。

山間地域を巡回するコミュニティバス

増便は考えられないか

町長　現状では難しい

質問　高齢化社会に伴い、特に運転免許証を返納される方がますます増えてくる状況で、コミュニティバスの存在がさらに大きなものになると思われる。

午前のみの運行で午後の運行をしていない日が週に2日ある。その時間帯の活用や、新たな増便は考えられないか。

町長　新たな増便はなかなか難しい。

現行の空いている時間帯の活用などは、地域の声を十分聞きながら考えていきたい。

学童の通学路の安全対策は

片　畑　進　之

通学路にグリーンベルトや歩道はあるのか

町長　一部の区間には歩道が設置されていない

質問　有田川町は東西の距離が50㎞にも渡っているため、中学校が４校、小学校が10校もある。
　それぞれの通学路で、グリーンベルトや歩道の設置状況はどのようになっているのか。

町長　グリーンベルトが設置されているのは、金屋地区（鳥屋城小学校周辺）、清水地区（八幡小学校および八幡中学校周辺）、吉備地区（県道22号吉備金屋線の一部区間）である。
　また、歩道が一部設置されているのは吉備中学校・金屋中学校・藤並小学校・田殿小学校・御霊小学校・石垣小学校・小川小学校・鳥屋城小学校周辺である。

危険な通学路の安全確保整備状況は

町長　早期に設置できるよう町から要望する

質問　鳥屋城小学校の通学路で、丹後の森交差点から西方約５００ｍ先の区間は道幅が狭く、特に朝は交通量が多く危険な状態である。
　歩道もしくはグリーンベルトを設置するよう、平成29年度に金屋区から要望書を提出した。
　その後、町からは明確な返答はないが、設置を検討されているのか。

町長　この区間は危険な箇所だと町も認識している。
　和歌山県では交通安全プログラムに基づいて、平成29年度から5カ年計画で、道路への歩道整備計画を立て順次施工をしている。
　当該箇所は、平成32年度にグリーンベルトを施工する予定である。町からも早期設置できるように県へ要望する。

通学路の拡幅と歩行者用側道橋の設置計画は

町長　歩道設置計画は進んでいる。側道橋はさらに県へ要望する

質問　鳥屋城小学校の通学路で、国道４８０号糸野交差点から川崎橋までは道幅が狭いうえに歩道がなく、危険な状態である。
　平成28年と29年に金屋地区区長会から要望書を提出し、町長からは歩道設置計画をつくっているとの返答だった。そして、平成28年に県が測量したとのことだが、その後の進展はどうなっているのか。

町長　県では、糸野交差点から県営住宅糸野団地間の歩道設置計画を立て、平成29年までに測量と設計が完了している。
　平成30年度は、用地測量と用地取得を実施するとのことだ。町もできるだけ早く歩道の設置を県へ要望する。

改修が望まれる通学路（糸野・市場地内）

新エネルギーのまち。今後は?
AEDの配置の現状と課題は?
電力自由化と本町の電気料金は?

小　林　英　世

新エネルギーのまち 今後の展望は

町長　安全・安心を第一に

質問　本町は新エネルギーのまち、エコのまちとしてまちづくりをしてきた。大きな賞を3ついただき、全国的にも知られるようになった。しかし、再生可能エネルギーにもさまざまな問題点が存在する。今後の展望と課題はどうか。

町長　まず、町事業の売電収入を活用し従来の補助金制度の拡充や、町有施設などに新エネルギー設備を積極的に導入することが「見える成果」を出す。

　また、白馬山系の風力発電事業の起工式が行われ、木質バイオマスや水力の発電事業も計画が進んでいる。

　しかし、新エネルギーも良いことばかりではない。環境に適応した事業であるとともに地域住民の安心と安全を第一に、事業者には十分な説明とご理解をいただくよう、指導とお願いをする。

質問　新エネルギーを利用したエネルギーの地産地消。本町の現状と今後の取り組みは。

町長　地域の資源を地域内のエネルギーとして活用することは、地域経済への相乗効果が大きい。

　現在、進めている木質バイオマス発電に期待している。

AEDはいつでも使えるのか

町長　就業時間内を主とする

質問　町内88カ所に設置されているAEDはどの程度、夜間や休日に使用できるのか。

町長　町内に設置している88カ所のAEDは、町のホームページで施設名と地図上に位置を公表している。

　ほとんどが、施設関係者の緊急事態に備え、就業時間内の利用を主として配置している。

質問　施設外に設置して24時間使用できるようにしたらどうか。

町長　管理面で難しい。

玄関に設置されているAED

質問　町内でも屋外に設置している施設があるので検討できないか。

町長　すべては無理だが検討する。

電気料金の節約と自由化は

町長　昨年度は約2100万円の節約ができた

質問　平成29年度、町施設の8カ所で受給電力を新電力に代えたが、節約効果はどうか。

町長　8施設での節約効果は約900万円。それ以外の31施設は関西電力の特約契約割引で1200万円程度節約できた。

質問　昨年度の町施設の総電気料金はいくらか。またそのうちの新電力は。

町長　総額は約2億8000万円。そのうち新電力は3000万円。

質問　今後の町施設への電力受給方針は。

町長　契約更新時にそれぞれの施設で見直しながら節約に努める。

自然林を守り、人工林を整備し、安心な暮らしを!

湊　正剛

住民を守る森林づくりを

町長　今後も行政指導のもと整備を行う

質問　放置されている人工林は風水害時、地滑りや崖崩れなど有田川流域に甚大な被害をもたらす要因になり、早急な対策が求められている。

間伐して保水力のある強い森林を形成していくことが急務である。

自然災害から住民を守る森林づくりに向けて、当局の対策や計画を問う。

町長　町面積の77％が森林である有田川町において、現在も森林整備を行っている。

平成31年度発足の森林環境税や森林環境譲与税を活用しながら、今後も順次、森林整備を行っていく。

産業振興部長　民有林は、その所有者と相談し、理解を求めながら責任を持って整備していく。

無謀ともいえる林地開発の認識は

町長　国・県の許認可に基づいているため反対できない

質問　大規模な林地開発は山の保水力を失うことはもとより、土砂の流出、また、ミネラルを含んだ湧き水や地下水に大きな影響を与える。

また、渇水になる時期を早め、農業用灌水の取水制限や中止をせざるを得ない事態となる。

さらに、有田川の観光資源である鮎の遡上、生息、産卵に悪影響を及ぼすことになる。町の認識はどうか。

町長　林地開発は国・県の詳細な条件のもとで認可されており、周辺地域の理解も得ている。

質問　現在、日本各地で局地的集中豪雨に見舞われている中で、自然災害と人災が重なって遭遇すれば、被害は甚大ではかり知れない。

上六川の太陽光発電の敷地面積は39ヘクタールと聞いている。この流域住民の理解を求めたのか。

町長　広範囲のため、下流域全体の住民に対しては打診していない。

質問　林地開発にあたっては、流域住民の安全のためにも、官民一体となり協議すべきではないか。

町として国・県への働きかけを強く求める。

また、自然林に対する保護団体や委員会もしくは環境保全に関する組織や担当課はあるのか。

産業振興部長　許認可制や届け出は県の担当であり、また、保護団体や委員会は今のところ組織づくりしていない。

質問　国・県に対して開発許可や届出制の規制条件を見直す考えはないのか。

町長　県に詳細な説明を求めたい。

集中豪雨による災害（三瀬川地内）

高齢者の生きがいと子どもの安心・安全を

堀　江　眞智子

プレケアすみれに通っていた方々の現状はどうか

町長　サロンや運動教室で対応している

質問　プレケアすみれの利用者は、介護保険を使わずに利用料を払って通っていた。それが無くなった今、利用者の現状はどうなのか。

町長　利用者233人の調査をしたところ、ほとんどの方はサロンや体操教室、施設での運動教室に新しく参加している。

まだ新しいところへ行けていない方には、しっかりと対策をしていく。

質問　小さな地区では高齢者だけでのサロンなどの運営は難しい。支援体制はどうなっているのか。

福祉保健部長　へき地ではどうしてもサロン活動へ行けない方もある。今後、自宅への送迎も考えていきたい。

学童保育の施設・環境整備は町予算で

町長　公費でやっていく

質問　現在、藤並学童の人数が増え、今年度は2から3施設の運営となった。しかし、施設を増やす対策だけでは、今後受け入れが難しくならないか。

御霊学童でも人数が増え、夏休みには個別の物入れが足りなくなるほどである。施設や環境の整備は。

町長　設備の整備は、運営団体と協議し公費でやっていく。

子どもたちの通学路と生活道路の安全対策は

町長　交通安全対策に取り組む

質問　庄地区内ぽっぽ道と町道の交差点で交通事故が起きた。事故防止の対策を求める。

町長　危険箇所については関係部署と連携し、安全対策を講じる。

また、教育委員会と連携し、交通安全指導にも取り組む。

質問　下水道工事中であっても、消えかけた横断歩道は仮舗装などの安全対策を求める。

建設環境部長　工事に時間がかかる場合、仮の横断歩道を引くことや着色塗装も考えていく。

消えかけた横断歩道（旧御霊駅東）

きび森の保育所、施設や遊具の整備は

教育長　体力づくりのための遊具は必要

質問　3年目を迎えるきび森の保育所、大雨時の対策はどうか。

また保護者からは、日常の体力づくりのための鉄棒やブランコなどの要望がある。どう対応するのか。

教育長　ぶらさがりなどの日常的な体力づくりのために遊具が必要と考える。

雨水対策は現場を見て対応したい。

新採用町職員が議会を傍聴

新しく採用された７人の町職員が議会を傍聴し感想を寄せてくれました。
原文の一部を抜粋しました。

議員の方々の質問は町民の質問に感じ、どの質問も重要だと思いました。自分がしていることだけでなく、これからいかして考えていきたいと思います。

日々の業務は、町民の願いを実現するためであることを忘れず、職務を果たしていきたいです。

有田川町の実情を広く見渡せる職員になれるよう、日々励んでいきたいと思います。

議会での質問内容は教育、観光、災害などさまざまでしたが、共通していたのは会場全体による「有田川町をより良い町にしたい」という思いでした。

住んでいながらも気付きにくい町の良さや課題があり、それらを言語化することによって共通認識をもつことができ、より有田川町に合った方法で解決に向かうことができるのだと感じました。私自身も出会う方々の思いを柔軟に吸収し、時代に合わせたまちづくりに貢献していきたいです。

議員の皆さまはそれぞれの考え方や角度を持っており、どうすれば有田川町がより良くなるのかを真剣に考えていることが分かりました。

町職員として働くことの責任の大きさを改めて認識しました。自分の担当のみならず町全体のことを常に意識する必要があると感じました。有田川町職員としての自覚をさらに深め、広い視野を持って業務に従事していきたいと思います。

平成30年度 きび体育館改修など 1億3585万2000円 一般会計補正予算

質疑

質疑 藤並小学校用地購入整備関連予算5176万5000円を計上。土地購入面積は985㎡を予定している。購入目的はどうか。

教育部長 取得予定の土地は駐車場として、約16m、横は約60m、約50台の駐車可能台数を予定している。

質疑 藤並小学校で児童数がまだ増えると見込んでいる。増築の年度をどうみているか。

教育部長 現在の出生数の推移から増築年度は2024年以降だと思う。しかし、藤並小学校区の宅地化が進み、早まる可能性もある。

質疑 きび体育館の床の改修工事約5340万円を予算化している。改修工事の内容はどうか。

教育部長 概算段階だが、既存の床の撤去に1010万円。床の張り替えなどで4330万6千円。

質疑 大阪の地震で小学校の塀がくずれて小学生が亡くなった。町内の学校など公共施設の塀の調査を求める。問題点が出てくれば議会への報告も求めておく。

教育部長 教育委員会としては、常日頃点検はやっている。早速、点検するよう指示し、状況を収集中である。今後、議会へも報告する。

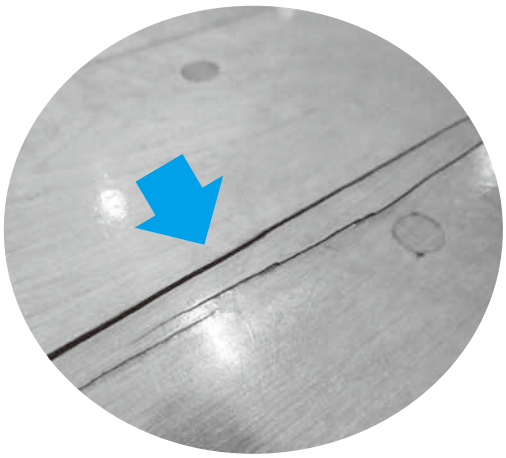
質疑 夏休み期間中、藤並小学校の3階の教室を利用して学童保育を行うが、なぜ夏休みという期間なのか。また、なぜ教室の利用となるのか。この予算はいくらか。

教育部長 現学童保育施設が手狭なため教室を借りる。夏休みの期間中だけの利用者が47人いる。予算は42万5000円。

質疑 学童保育の事業費を当初予算で見込めなかったのはなぜか。

教育部長 当初の予算編成時は利用者数が確定できず、それに伴う職員採用の見込みが立たなかった。

きび体育館改修事業5640万円



▲フロアの割れ

放課後児童健全育成事業449万円

▶藤並学童クラブ第3

消防ポンプ車購入
３３４８万円

清水文化センター空調修繕
１９４万円

副町長の選任同意

坂頭 徳彦 氏（新任）
さかがしら のりひこ

合併から副町長を務められた山﨑博司氏が退任され、新たに副町長が選任されました。

なお、新副町長の任期は７月１日から４年間です。

監査委員の選任同意

服部 眞悟 氏（新任）

報告

◎一般財団法人「有田川町ふるさと開発公社」の経営状況

農業委員会委員の選任同意

辻　義功 氏（下津野）
林　靖巳 氏（明王寺）
岩倉 洋治 氏（井　口）
吉信 清彦 氏（　角）
湯原 康弘 氏（吉　見）
森田 善久 氏（歓喜寺）
中尾 高明 氏（中井原）
大北 義和 氏（　中）
榎本 利成 氏（丹　生）
向井 正久 氏（粟　生）
山田 文男 氏（清　水）
宮本 一彦 氏（久野原）
城山 富三 氏（土　生）
竹中 真理 氏（下津野）
星田 光司 氏（徳　田）

議会活性化調査特別委員会

議会活性化調査特別委員会は10人の委員で構成されています。

委員会では、議会の活性化はもとより、住民に関心をより深めてもらえるよう、必要に応じて委員会を開き、議論しています。

協議していること

●住民の皆さんに、一般質問など議会活動が広くお伝えできるあり方の研究。
●議会広報編集特別委員会を常任委員会へと改正すること。
●その他、議会活性化に資することの調査。

今後も委員会活動の内容を随時報告できればと思います。

国道・県道などの現地調査

国道対策特別委員会活動報告（6月13日）

国道424号災害現場（畦田地内）

国道480号（杉野原地内）

県道海南金屋線鏡石トンネル予定地付近（上六川地内）

平成30年度末に完成予定の国道424号吉田バイパス（吉田地内）

6月13日、国道対策特別委員会を開きました。

今回、国道480号、424号の有田川町管内路線の整備状況、県道海南金屋線の整備状況を県振興局担当部、同行のもと、現地調査を行い、左記のとおり要望しました。

要望事項

- 国道480号、清水地内の拡幅整備
- 国道480号、田殿橋から中央橋間の拡幅整備
- 吉田バイパスなどの早期完成
- 県道海南金屋線の早期完成
- 国道480号路側帯の草刈りと側溝の清掃
- 国道・県道の路面補修

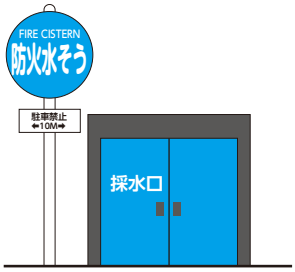
辺地総合整備計画

▲町道辻り石線道路改良事業

▲町道生石・大月線道路改良事業

▲黒松・西ケ峯線道路改良事業

◎防火水槽新設事業（上六川・押手地区）



道路の認定

◎町道1012号線（水尻）

幅員　6m
延長　69・63m

産業建設住民常任委員会で現地調査を行い、認定することになりました。

認定道路1012号線（水尻）

トピックス 有田川町周遊定額タクシー事業

事業概要

ＪＲや路線バスから乗り継ぐ２次・３次交通として、この「周遊定額タクシー事業」を実施することで、観光客の増加はもちろん、利便性向上による公共交通機関の利用促進を図ります。また、深刻化している交通不便地域での交通手段確保の一助とし、路線バス、コミュニティバスを補完するデマンド型公共交通手段として整備を図ります。

■平成３０年７月１日（日）から実施

■利用料金（乗車から最終降車地までの時間）

	２時間	３時間	４時間	５時間	６時間
小　　型（最大４名）	5,000円	7,500円	10,000円	12,500円	15,000円
ジャンボ（最大９名）	7,000円	10,500円	14,000円	17,500円	21,000円

※**利用者が支払う料金は上記表のとおり**で、有田川町は実際の料金との差額をタクシー事業者に支払う。
なお、６時間を超過した分は利用者負担とする。

■乗降地

乗降できる場所は、ＪＲ藤並駅をはじめ有田川町内全域。ただし、済生会有田病院および有田市立病院については、交付対象となる乗降地とする。

■運行事業者

末広タクシー（小型・ジャンボ）	有田川町金屋23-1	**TEL.0737-32-3155**
有鉄観光タクシー株式会社（小型のみ）	有田川町徳田178	**TEL.0737-52-3034**

■申込方法

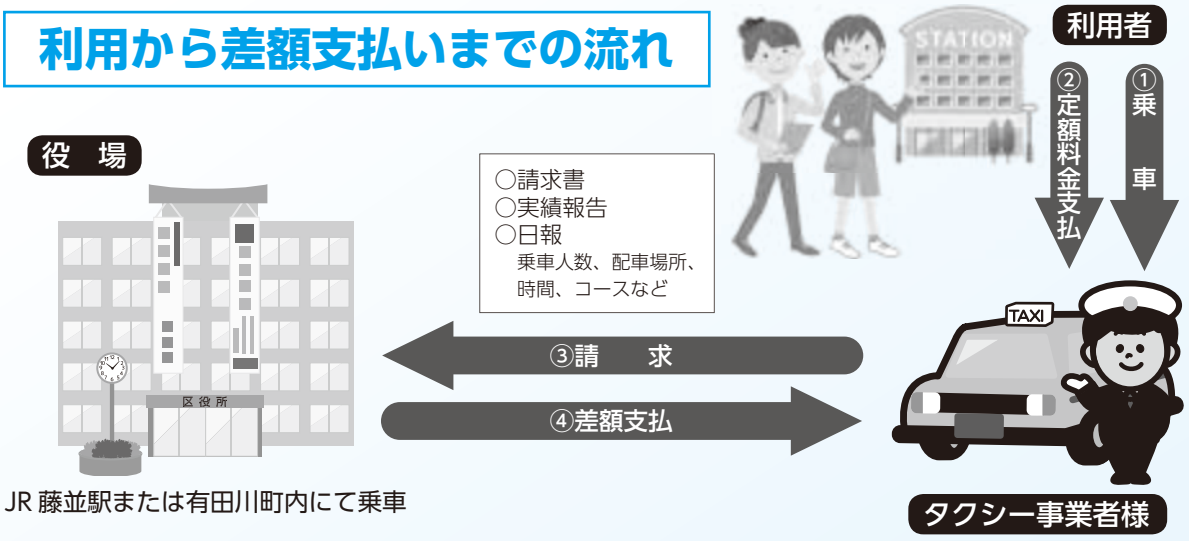
利用を希望する３日前までに、利用者が直接事業者に電話で予約する。申込者の氏名、（携帯）電話番号、乗車場所、時間、大まかなコース、降車場所、車種などを伝える。

■その他

＊観光目的に限定せず、一般の利用も可とする。
＊利用者は、町内・町外在住を問わない。なお、他の割引制度との併用は不可。

※問い合わせ先　企画調整課　TEL.0737-52-2111

利用から差額支払いまでの流れ



和歌山県町村議会議長会 自治功労者表彰

湊　正剛　議員

3年以上にわたり、町議会議長として地方自治の振興発展に寄与した功労が認められ、和歌山県町村議長会より表彰されました。

意見書・決議

●意見書の提出
（仮称）海南・紀美野風力発電事業に対する林地開発の不許可を求める意見書の提出
●提出先　和歌山県知事
●決議
2025年国際博覧会の誘致に関する決議

4月以降の委員会開催

月　日	委員会名	出席者
4月6日	議会広報編集特別委員会	委員7人、議長
4月13日	議会運営委員会	委員5人、議長、副議長
4月13日	議会広報編集特別委員会	委員7人、議長
5月8日	議会活性化調査特別委員会	委員10人、議長
5月30日	議会運営委員会	委員6人、議長、副議長
6月6日	産業建設住民常任委員会	委員8人（うち議長も含む）
6月7日	総務文教福祉常任委員会	委員8人、議長
6月13日	国道対策特別委員会	委員11人、議長
6月18日	議会活性化調査特別委員会	委員9人、議長
6月26日	議会広報編集特別委員会	委員6人、議長
7月6日	議会広報編集特別委員会	委員7人、議長
7月13日	議会運営委員会	委員6人、議長、副議長
7月13日	議会広報編集特別委員会	委員7人、議長

平成30年4月以降の行政視察受け入れ

月　日	委員会名	人数	視察目的
4月16日	鹿児島県東串良町議会	12人	絵本まちづくり事業他
5月31日	沖縄県宮古島市議会	8人	地方創生事業
7月10日	北海道江別市議会	3人	人事行政
7月24日	福島県川俣町議会	8人	地域交流センター運営他

キャンドルライトイルミネーション Vol.12 開催

日時　9月6日（木）
午後6時から
（開会式は5時30分）
場所　あらぎじま周辺
（駐車場　三田わかもの広場）

地元若手有志「紀清の集い」によるイベント。
約1700本の手作り竹灯龍にろうそくをともして、本町にゆかりのある秋篠宮悠仁親王殿下の12歳のお誕生日を一緒にお祝いしませんか。

主催　紀清の集い
後援　有田川町

産業建設住民常任委員会

創業支援のあり方を学ぶ

沖縄県名護市 視察報告

委員長　谷畑　進

7月4日から5日にかけて、沖縄県名護市で産業建設住民常任委員会の行政視察を行った。

名護市は沖縄本島北部に位置しており、総面積約210㎢、人口6万2664人の市である。

名護市産業支援センター

名護市産業支援センター

「名護市産業支援センター」は、名護市中心街に設立された産業振興に係る総合支援拠点である。

主な支援内容

①起業化支援
②産業交流
③新事業創出
④人材育成
⑤研究開発
⑥販路開拓

センター内には市商工会、観光協会、商工観光局が入り、官民共同の市活性化をめざしている。

現在、オフィススペースには13社が入居しており、253人の雇用が生まれている。

インキュベーション

インキュベーションとは、起業家の卵を育てること。

支援センターの3階にインキュベーションルームを設置し、新規創業者養成をめざしている。

使用期間は3年以内で、1カ月の使用料は1㎡あたり500円（相場の半額）

現在7社が入居し、雇用人数は24人。

契約満了後の企業は名護市街地に起業することを求められる。

若年層の起業を支援するには、補助金だけではなく安値で借用できるインキュベーションルームのようなシステム構築も効果がある。

本町の、田殿保育所跡での事業（地方創生事業）に期待したい。

インバウンド観光

現在、名護市では観光を中心に経済効果向上を図っている。入込客数や宿泊客は年々増加している。

昨年は多言語看板を設置して、インバウンド観光客の増加を図る。

今後、ワイファイ設備の環境整備を行い、観光客の滞在時間長期化を図る。また、ワイファイ設備を活用して観光客のニーズ調査を行い、インバウンド観光客の増加をめざす。

本町では平成31年度から、ワイファイ設備の環境整備を進める計画をしている。整備後は、利用者の傾向把握やニーズ調査ができるように考慮すれば、更に活用の幅が広がると考えられる。

最後に

若年層の起業支援は、今後の雇用拡大のためにも、前向きに取り組むことが必要である。また、起業を支援するだけではなく、現在ある企業の定着化に向けて取り組むことも必要であると考える。

そのためにも、ニーズを精査し、明確な方向性を持つ必要がある。

まつりいろいろ

かなやおしゃるきまつり花火

吉原あじさいまつり

求む!

広報委員会では、議会広報誌「かわら版」の表紙を飾る写真・イラストなど、町民の皆さんから募らせていただいております。

有田川町の名所や風景など、お気軽にご応募ください。

皆さんからのご意見、ご感想もお待ちしています。

議会広報編集特別委員会

◎は委員長
○は副委員長

◎増谷憲
○小林英世
椿原竜二
中島詳裕
星田仁志
片畑進之
岡省吾

編集後記

暑中お見舞い申し上げます。

平成18年5月に創刊された「かわら版」が今号で50号となりました。

「近所のおいやん、おばちゃんがある日突然政治家になった。そんな素人政治家が、どんな活動をしているのか知ってもらいたい。皆さんの意見を聞かせてもらいたい。

新しいまちづくりを皆さんと一緒に進めていくための窓口になれるよう、このたび議会広報かわら版の発行となりました。」

右はかわら版創刊号の編集後記の前文です。決意とともに創刊の意図が示されています。

時代の変化が激しく、課題も多いが、初心を忘れず、親しみやすい紙面作りに励む所存です。

（小林　英世）

お問い合わせ☎52-2111
吉備庁舎4階 議会事務局まで